

あおもり漁連

代表理事会長 植村正治 書

資源有限漁業無限

No.

125



大間漁協のマグロの水揚げ風景

CONTENTS

県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ	1
全国系統団体 新年ごあいさつ	6
21世紀を拓く（2001人）青森県漁民大会 大会決議の成果を得る!!	11
漁協監事研修会開催	12
養殖業リース助成基金の増資陳情	13
平成13年度漁協運動功労者表彰式	14
第29回「海をきれいにする運動」 応募作品審査発表	15
定置漁業研修会開催	19
主な水産に関する動き（11～12月）	20
県内漁協紹介（大間漁協）	21



メバルの荷受け風景

2002 1

21世紀は漁村の時代

ポスターの部 特選（小学校の部）



蓬田村立蓬田小学校 5年 三上 匠

ポスターの部 特選（中学校の部）



三厩村立三厩中学校 1年 柳谷 みずほ

標語の部 特選

まもろうよ
うみはみんなのおかあさん

第一川内小 1年 米田 咲稀

第29回「海をきれいにする運動」
優秀作品

図画の部 特選（中学校の部）



青森市立東中学校 3年 小笠原 歩

図画の部 特選（小学校の部）



青森市立油川小学校 2年 吉田 圭一郎

あ
と
が
き

新年あけましておめでとうございます。
漁業関係者の皆様におかれましては、希望に
満ちた新春を迎えられたことと思います。
二〇〇二年の年頭にあたり、関係各団体長様
よりご挨拶をいただき厚くお礼申し上げます。
今年も「あおり漁連」をより一層、漁業に
関する情報誌として内容を充実させ、皆様から
親しまれるよう心掛けて参りたいと思いますの
で、今後ともよろしくお願い致します。
最後に、漁業関係者各位のご健康と操業の安
全、大漁を心からご祈念申し上げます。

平成14年1月1日発行

◆発行◆

青森県漁業協同組合連合会

青森市安方一丁目1番地32号 TEL017-722-4211(代)

◆印刷◆

青森コロニー印刷 TEL017-738-2021(代)

平成14年

県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 植村 正 治

新世紀二〇〇二年の新春を迎えられた県内漁業者の皆様、そして漁協の業務運営に日夜励んでおられます皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、青森県の水産業は、漁業生産量の減少、消費低迷による魚価安、経済不況等大変厳しい状況におかれておりますが、本県の経済を支える基幹産業として、また、新たな海洋秩序を踏まえ、時代の変化に対応した産業として、魚のいる海をつくるため、漁業資源の適切な管理と有効利用を従来にも増して高めていかなければなりません。

昨年の六月二十九日に、我が国漁業者が長い間待ち望んでおりました水産基本法が公布施行されております。

水産基本法の目的は、資源管理に努め、長続きのする漁業をつくりあげることです。

漁業という産業は、国民に対して動物性蛋白を供給するための食料産業としての位置付けを確たるものとし、漁村全体の核として、多面的機能を発揮しながら地方の時代を支えていかなければなりません。

二十一世紀の食料補完は漁業者の力にかかっていると云っても過言ではありません。我が国は、世界有数の長寿国となっておりますが、長寿社会を形成する基になっている魚食文化も、魚の生産が無くしては成り立ちません。

そのためには、自然を大切にし、漁場環境を守り、国民に水産物を安定的に供給していくことであります。

一方、漁協経営については、二十一世紀における新しい組織構成が必要であり、迅速な対応をしなければならぬ決断の時期にきていると思います。

少なくとも、一市町村一漁協を見極めながら地域再編の認定漁協へと、他の圧力に負けないような組織改革をしていかなければなりません。

問題は山積しておりますが、皆さんと共に海を守り、魚のいる海をつくりあげるといふ基本的課題を我々の大きなテーマとして全力を尽くして参りたいと考えております。

二十一世紀は、自然と共生の時代、資源有限・漁業無限を標榜し、青森県の地方の時代を核とした漁業漁村を確立するため頑張らしましょう。



青森県農林水産部長

玉 熊 良 悦

新年あけましておめでとうございます。
平成十四年の新春を迎えるにあたり、日頃本県水産業の発展に御尽力をいただいております皆様謹んで御挨拶を申し上げます。

さて、本県水産業の昨年一年間を振り返りますと、まず、ヒラメの漁獲量が平成十二年において史上最高の一、八〇七トンとなり、日本一に返り咲いたことが挙げられます。これもひとえに種苗放流や資源管理など漁業関係者によるご努力の賜物であり、昨年の本県水産業は明るい話題から始まりました。

その他の漁況に関しましては、本県の主要魚種であるスルメイカは、地域的なバラツキはあるものの全体としては一昨年並みの高い漁獲水準で推移しました。また、昨シーズン不漁であった磯根資源を代表するコンブは、復調の兆しをみせてきております。反面、陸奥湾を中心としたホタテガイ養殖業においては、県漁連取扱高が昨年十

一月末で八十三億円と、前年度実績を大きく下回る状況となっております。また、本県の主要魚種であるサケの漁獲が不振に終わるなど、沿岸漁業にとって厳しい状況が続いております。

我が国周辺水域における水産資源は総じて低い水準にあり、また、長期化する魚価の低迷等厳しい情勢を反映して、漁業者のみならず漁協経営も苦しい状況が続いているところです。

このような中、県では「二十一世紀を拓く水産業と漁村づくり」を基本目標とする新青森県水産振興プランに基づき、「新しい世紀への水産業づくり」、「新しい時代を担う人づくり」、「水産業を核とする新しい漁村づくり」を図るための施策を積極的に推進してきました。

具体的には、昨年十一月に新たなスタートをきった社団法人青森県栽培漁業振興協会を中心に、ヒラメ、アワビをはじめとする栽培漁業の推進を図るとともに、ヒラメ

をはじめミズダコ、トゲクリガニ等の資源管理を推進するなど、つくり育てる漁業と資源管理型漁業による水産資源の維持増大をより一層図ったほか、環境保全に留意した効果的かつ計画的な漁場の整備並びに、新たな沿岸漁業構造改善計画に基づいた水産情報高度利用施設の整備等に取り組んできました。

また、漁協合併、事業譲渡等を推進するため青森県漁協経営強化基本方針に基づき、漁協が将来にわたって組合員の負託に応えられるよう経営基盤の強化に取り組んできたところです。

漁港・漁村につきましては、新たな長期計画の策定作業を進めながら、百石漁港改修事業に着手したほか、周辺の環境に配慮した計画的な漁港整備及び漁村の環境整備に取り組み、漁業集落排水施設や公園、緑地などが整備された快適で住み良い漁村づくりを進めてきました。

本県は、今まで水産物の原料供給県としての性格が強く、「青森ブランド」として全国に通用する付加価値の高い水産加工品が少ないことから、水産物の流通加工にも力を入れるとともに、水産加工品の開発においては、近年の消費者の「安全、健康、

本物」志向等への的確な対応に努めて参りました。

さらに、昨年四月、大畑町において下北ブランド研究開発センターが開所し、下北地域の産業振興の拠点として地域の農林水産物を活用した特産品開発に関する研究業務を開始しました。

本県水産業は、これまで、第一線で精励されている漁業関係者の皆様の御尽力により、県内はもとより、全国に対する水産物

の供給県としての役割を果たすとともに、

地域経済を支える中核的な産業として、地域社会の安定・発展にとって重要な役割を担ってきました。

国においては、昨年、水産物の安定供給の確保と水産業の健全な発展を基本理念とした水産基本法が制定され、これに伴う漁業法、漁船法、海洋生物資源の保存及び管理に関する法律の改正が行われ、漁港法が漁港漁場整備法に改正されました。

県としては、国の施策と呼応しながら、今後とも、官民一体となり、食料供給県としての地位を確固たるものとするともに、二十一世紀における安全で豊かな生活を求める県民の要請にこたえていく所存ですので、皆様の御協力、御支援を賜りますようお願いいたします。

終わりに、皆様の御健勝と御繁栄を心からお祈りいたしまして、新年の挨拶いたします。



青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 古川 俊

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、二十一世紀初頭という輝かしい、記念すべき年ではありましたが、月日が流れるのは早いもので、あっという間に過ぎ去った一年だったと思います。

いまここに新たな二〇〇二年を迎え、浜の皆様とともに心から新年をお祝いしたいと思います。

昨年は、国民の圧倒的な支持を受けて小

泉内閣が誕生し、景気上昇の期待もありま

したが、現実には、構造改革の痛みが徐々に広がり景気浮揚のきつかけさえ見られない後退局面に入ったと思われます。

生産面での大幅な減少が雇用・所得面を通じて個人消費にも及び始めており、その影響は農産品価格とともに漁業生産価格の大幅な下落にも現れております。

一方本県の漁業状況を見ますと、四海域

ともほとんどの魚種において前年度実績を下回り近年にない不漁年でありましたが、それが漁価収入の減少にもろにはねかえり、漁協貯金の減少とともに、新設された小口資金の借入れ需要につながっていると思われます。

このような逼迫する経済情勢の中で、昨年来、本会の自己資本充実のための増資要請に快く応じていただいた会員の皆様には、心からの深甚の意を表します。

浜回りを通じていた、だいた叱咤激励に素直に耳を傾け、今後の経営に役立てて参る所存ですので、何卒今後ともご支援よろしくお願い申し上げます、ご挨拶いたします。



青森県漁業信用基金協会

理事長 植村 正治

新年あけましておめでとうございます。
平成十四年の輝かしい新年を会員の皆様
とお迎えすることができましたことを大変
うれしく思います。

また、日ごろ当協会の業務につきまして、
県、市町村、関係機関より格別の御指導、
御協力を賜り衷心よりお礼申し上げます。
さて、昨年は景気の悪化による企業倒産

の急増、株価や市場金利の低迷等により国
民生活は大きく揺れましたが、今年こそは
景気の回復を願うものであります。

一方本県水産業（特に中小漁業者）は、
長引く水揚げ不振並びに後継者問題等依然と
して厳しい漁業環境にあり、このような時
こそ、漁協並びに漁業者の皆様及び「系統
団体」が一丸となり、その役割を発揮する

ことが必要であり、特に昨年度から実施し
た沿岸漁業関連推進資金（県漁連・信漁連・
協会三者で創設）は、お陰様で好評を博し
ており、今後とも浜の活性化のため漁業者
並びに会員がより利用しやすい保証機関と
して積極的に努力して参りたいと思えます
ので皆様のご協力、ご支援を賜りますよう
お願いいたします。

終りに、皆様のますますの御繁栄と御健
勝をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といた
します。



農林中央金庫

青森支店長 泉 沢 和 行

漁協組合員ならびに役職員の皆様、新年
あけましておめでとうございます。

漁業を巡るめまぐるしい変化のなかで、
漁業と漁協事業全般にわたる皆様方の日々
のご尽力に対しまして深く感謝申し上げます
とともに、私ども農林中央金庫の業務に
つきまして、特段のご理解とご支援をいた

だき心から御礼申し上げます。

さて、昨年六月の通常国会において水産
基本法が可決・成立いたしました。これ
を契機としてわが国の漁業・漁協が大きく
変わろうとしております。その基本方向は、
従来の漁業生産性の向上、生産の増大など
を主眼に置いた方向を抜本的に見直し、わ

が国周辺水域における水産資源の適切な保
全管理と持続的利用を行うというものであ
ります。

新しい政策のもとで、漁協系統は期待さ
れる役割を発揮できるよう事業・組織のあ
り方を見直し、大胆な改革を実践していく
ことが求められております。

また、ご高尚のとおり、現在、金融機関
を巡る情勢は大きく様変わりをしており
ます。早期は正措置の導入、金融システ
ム改革法の施行、会計の国際基準への改正
等と続いた日本版ビッグバンは最終段階を

迎え、いよいよ本年四月以降ペイオフ解禁が予定されております。さらには、小泉内閣の骨太の基本方針の中に、経済再生の第一歩として、不良債権問題の抜本的解決が掲げられるなど、その変化は急速に進展いたしております。

農協系統におきましては、本年の一月一日から破綻未然防止策を柱としたJAバンク法が施行されましたが、漁協系統におきましても、その変化に適切に対応し得る体制の整備が急務であります。従来から指摘

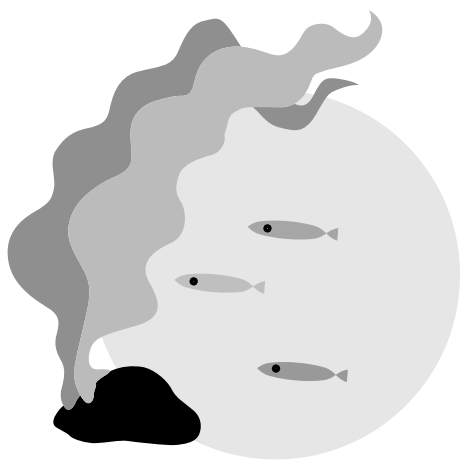
されております小規模・零細ゆえに役職員等実施体制が不十分かつ事業基盤が脆弱という問題点を克服し、自己責任経営、経営の健全性確保等に向けた取組が求められております。本年の通常国会において、これらを目的として水協法改正が予定されているところであります。

当県におかれましても、漁協系統の皆様方が一致協力、英知を結集し、そのような取組を強化していただくことにより、今後とも漁業経営および漁協事業への血液供給

という漁協系統信用事業が期待される役割を発揮されますことを強くご期待申しあげる次第でございます。

私ども農林中央金庫といたしましても、こうした課題の克服に向け皆様方との連携をさらに強めつつ、最大限の努力をしていく所存であります。

最後になりましたが、本年の豊漁、漁協組合員と役職員ならびにご家族の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



平成14年

全国系統団体からの新年のごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 植村正治

新年あけましておめでとうございます。
年頭に当たり、全国の漁業者並びにJFグループ（漁協系統）の皆様にご挨拶を申し上げます。

一昨年は日韓に続き、日中の新漁業協定が発効し、資源管理とその持続的利用、海洋環境の保全を図っていく、本格的な二〇〇海里時代の枠組みが出来、また昨年はいくつかの新しい時代の対応、即応について議論の原点になる水産基本法が施行されるなど、これらがここ三カ年で整備された事は大変意義あることと思います。

水産業が安心安全な食料を安定的に供給する産業として位置づけられると同時に、環境保全、島々をはじめとする国土の保全、食料安保等が大きな柱になって認知された

事は、漁業という産業を持続可能ならしめる、国際的に大きな役割を持つ基本法であるといえます。

この基本法の下で、漁業・漁村の活性化、JFグループ（漁協系統）の一層の役割発揮をして参らなければなりません。漁業は将来性の高い産業であります。健康食品を供給し、これからの地球規模での人口増大、エネルギー問題、環境問題等を解決していくための重要な産業であります。

地方分権の時代として、地方の活性化に向けての課題を明確にし、特色があり魅力ある望まれる産業として存立出来る可能性を持つております。地域産業経済がしっかりしていることが平和のもとでもあります。近年つくり育てる漁業が盛んになってき

ておりますが、天然資源が不足していることが重大な問題であります。資源あつての漁業であります。基本法にのっとり、資源を育てる発想の下での許可の枠組み、線引き作りが行われなければなりません。弱肉強食、過当競争の獲り放題の状況になってはならないのであります。

そのためには、漁業者が自立性を高め、意識改革の下、自主管理体制を構築し、前浜の管理をしっかりとやらなければなりません。TAC制度の的確な実施をする上でも同様であります。

二十一世紀を迎え、新しい時代を模索する重大な時期にさしかかったと言えます。

時代を切り開いていくためには、系統の事業と組織の改革と経営基盤の安定により、立派な力のある組織になっていかなければなりません。

浜の理解の下、地域特性を有する漁業が持つ個々の問題に、どう対応していくかも配慮し、合併等体制整備を一層進めなければ

ばなりません。

漁村の下水道整備や近郊都市へのアクセス等の整備、駐車場も完備された漁港づくりなど、都市と交流ができる漁村づくりを進める事により、都市も地方も一体化し、活性化していく方策を進めることが大切であります。山も温暖化防止や空気の清浄化に役立っておりますが、国家国民のために、おいしい食料を供給する、浜のすばらしい環境がある漁村に、どうぞいらつしやいと、大きな気持ちで迎ええられる漁村でありたいと願っております。

国民も魚のいる海が漁業者の原点であることを認識し、釣りを楽しんでも資源は絶

やさないという気持ちになって頂きたい。

資源は国民みんなで管理するものであるという、海を楽しむ仲間意識と意識改革で資源を守り育てて行きたいものです。

また、輸入水産物の増大による、国内水産物の価格の低迷は漁家経営にいよいよ厳しさを加えております。これ以上の無秩序な輸入には絶対反対して参らねばなりません。日本の国の主張が世界を動かす様な行動をとって行きたいものと思います。世界最大のNGOであるICA（国際協同組合同盟）の漁業委員会が果たす役割は大きいと思います。

JF全漁連は、浜の声をどう代弁するか

に思いを巡らせて、私共の最も重要な課題を掲げ、政治力の結集のもと、この変革の時代を先頭に立って乗り越えていく所存です。

資源を管理し、漁場を守り、組合を守る立場から、自分たちの生活を築き上げることに重要であります。

消費者に親しまれ、信頼され、選ばれるJFグループ（漁協系統）の一層の結束と連携強化を図り、新しい時代にふさわしい運動を皆様と共に展開して参りたいと思います。

この一年が良い年でありますよう願ひ、全国各地でご活躍の皆様方の海上安全と一層のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長 部 原 政 夫

総仕上げと新たな出発

全国の漁村の皆様、あけましておめでとうございます。

漁業・漁村をめぐる情勢が厳しいなかで、昨年は漁協系統の念願であった「水産基本

法」が制定され、新しい水産政策の運動母体として漁協系統の役割は一層重要となりました。また、（イメージ刷新運動の一環として）漁協系統の統一呼称が「JF」に決定したことから「漁協の共済」についても愛称を「JF共済」とするなど事業と組

織のイメージ改革に取り組むことといたしました。

今年度は、二年間にわたる「漁協の共済」創設五〇周年の「おかげさまで五〇年」運動のもと、組合事業の柱を目指すことを基本目標とする「二十一世紀へ！漁協の共済三ヵ年計画」の総仕上げの段階を迎えています。もとより暮らしの保障を万全なものにするためには、これを一過程として、なお一層強力な運動の展開を必要といたします。

このため、平成十四年度から始まる新しい三か年計画を策定し、漁協・推進本部・共水連が一体となり、計画に掲げた基本目標の達成にむけた全国運動を強力に展開することといたします。また、共水連として

も自立的漁協の育成をいっそう促進するとともに、経営・業務改革の推進等をすすめ、皆様から信頼をいただけるような施策と積極的に取り組んでいく所存であります。

「美しい海と漁業を守り、豊かに安心し



全国漁業共済組合連合会

会長理事 船 本 幸 作

改正制度を活用し普遍的 加入の実現を

全国の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。

最近の漁業を取り巻く情勢は、魚価の低迷、漁業資源の低下、台風・赤潮等頻発する自然災害などにより極めて厳しい状況が続いており、漁業経営を守る「ぎよさい」の役割は従来に増して一層重要となつて参りました。このような状況の中で昨年漁協系統の念願でありました「水産基本法」が制定されるとともに、「ぎよさい」が二十一世紀の漁業経営対策の主要な柱として位置づけられたこともあり、ぎよさいの普及

拡大に一層意欲をもつて取組む決意を新たにいたしましたところであります。

ぎよさいの普及拡大の強化を主眼として平成十一年四月から三カ年にわたり展開してまいりました『パワーアップぎよさい21』全国運動も、この三月にはいよいよ大詰を迎えることとなりました。推進運動期間を通じ、漁協系統団体をはじめ国や地方自治体等関係各位のご支援・ご協力を頂き厳しい漁業情勢の中にもかかわらず、多くの新規加入等の成果を得ることができました。また「ぎよさい」の普及拡大に当っては今後一層強力な推進運動を展開する重要性が改めて痛感されたところであります。

このような趣旨から、平成十四年度から

で暮らすことのできる魅力ある地域づくり」を合言葉に全国の漁村の皆様のご理解を得て、今年も力強く前進してまいりたいと思います。

平成十七年度までの四カ年にわたり、新たな加入運動として『新ぎよさい総加入運動21』を実施することとしております。漁業者の皆様方がより一層利用しやすい「ぎよさい」制度とするために本年春の通常国会において漁業災害補償法の改正が予定され、十月には新しい「ぎよさい」制度の実施が見込まれております。

新運動の展開にあたりましては、この新しい「ぎよさい」制度を十分活用しつつ、漁業経営対策の柱としての「ぎよさい」を強力にアピールすることにより新運動の目標であります全ての漁業者の「ぎよさい」加入を達成してまいりたいと考えています。新時代の漁業と漁村づくりに「ぎよさい」がますますの貢献ができますよう、今年も皆様と相携えて、力強く前進してまいりたいと存じます。



青森県漁業協同組合連合会

(順不同)

中里信男
ほか役員一同



謹 賀 新 年



(社)青森県漁協経営安定対策協会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
むつ湾漁業振興会	会 長	ほ 三 か 役谷 職 員廣一 同 明
(社)青森県ほたて漁業振興基金	理 事 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
(財)青森県沿岸漁業振興協会	理 事 長	ほ 山 か 役口 職 員 枉一 同 義
青森県漁業経営安定対策本部	本 部 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県さけます増殖振興協会	会 長	ほ 高 か 役橋 職 員長次郎 同
青森県小型いか釣漁業協議会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
(社)青森県水産振興会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県漁業環境保全振興協会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県漁船海難防止・水難救済会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県漁村活性化対策協議会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治

青森県定置漁業協会	会 長	ほ 西 か 役崎 職 員義一 同 三
青森県水産業改良普及会	会 長	ほ 後 か 役藤 職 員 一巧
青森県漁協専務参事会	会 長	ほ 川 か 役村 職 員 一隆
漁船海難遺児を励ます青森県地方協議会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
尻屋崎周辺操業秩序維持対策協議会	会 長	ほ 新 か 役保 職 員勝一 同 雄
むつ湾漁業青色申告会連合会	会 長	ほ 前 か 役田 職 員昌一 同 夫
青森県さけ流通振興協会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県ほたて流通振興協会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県漁業経営指導協会	会 長	ほ 植 か 役村 職 員正一 同 治
青森県漁協女性組織協議会	会 長	ほ 角 か 役田 職 員ミヤ 同

—— 水産基本法に魂を ——

21世紀を拓く(2001人)青森県漁民大会 (平成13年7月6日開催) 大会決議の成果を得る!!

西北五事務組合ごみ焼却処理施設

十三湖畔への新設断念

稲垣の施設改修し対応

新たな候補地選定へ

【青森県】青森県漁業振興課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。



ごみ焼却処理施設の十三湖畔新設を断念する中で一致した市町村関係者

【青森県】青森県漁業振興課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。

組合へ不信感根強く

【青森県】青森県漁業振興課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。同課は、十三湖畔の稲垣地区に、ごみ焼却処理施設の新設を断念し、新たな候補地を選定する方針を明らかにした。

(記事提供：東奥日報)

漁協監事研修会開催

(社) 青森県漁協経営安定対策協会主催
の漁協監事研修会十一月二日、青森県水産
ビルで開催された。

研修会では、「漁協監事としての役割と
職責を自覚し、漁協経営に関する基礎知識
の修得を図ることにより資質の向上と漁協
の健全な発展に資する」ことを目的に県内
漁協の監事、約百人が参加し行なわれた。

冒頭、主催者である植村正治会長から
「漁協系統の悲願であった水産基本法が六
月に制定し、資源管理型漁業の推進、漁業



主催者挨拶する植村会長



研修風景

後継者の育成、漁業経営安定の拡充等、新
たな時代に対応した施策が重要となってい
る。今回の研修会で監事としての役割と職
責を自覚し、組合経営の健全な発展に努め
てほしい」と述べた。

また、来賓として県団体経営改善課、三
上茂課長から「監事は、監査において適正

な事業運営と健全な漁協経営に資するとい
う重要な役割を担っている。今後、皆さま
の監査実務に対する円滑化、効率化に資す
ることを祈念したい」と挨拶を述べた。
研修会では、事務局から本県漁協の経営
概況及び合併推進状況が報告された後、講
師である県団体経営改善課、神馬昭夫総括
主幹が「監事の役割について」及び「監事
の業務監査について」、県漁連指導部、藤
井幸雄部長が「監事の会計監査について」、
それぞれ講義がなされ、参加者は熱心に耳
を傾けていました。



藤井漁連指導部長



神馬県団体経営改善課総括主幹

「養殖業リース助成基金」予算獲得陳情 大島国対委員長、水産庁長官らに要請！

植村県漁連会長、西崎県漁連副会長、三津谷むつ湾漁業振興会長は去る11月22日、水産庁の養殖リース基金の14年度予算獲得（予算要求額5,000万円）と同基金の1億円増額を大島理森自民党国対委員長、渡辺好明水産庁長官らへ要請した。

平成8年からスタートした養殖リース事業は、養殖業者の利用率が高いが現在リース基金不足で申請受付が滞っている状況にある。

本県では、主要漁業であるホタテ漁業にこの養殖リースが適用され、ホタテ洗浄機が急速普及し漁業者からは大変喜ばれている。機械化が進むことにより、作業時間が短縮され女性や老人でもホタテ漁業ができるようになった。

これに対し、渡辺水産庁長官は「養殖リース事業は実績があり、十分成果を挙げている。要望に沿うようにがんばりたい」と語った。

また、大島自民党国対委員長は「利用価値が高く必要なものであればこれは是非予算獲得に向けて努力する」と語った。



大島自民党国対委員長へ要請



渡辺水産庁長官へ要請

平成十三年 度

漁協運動功労者表彰式



むつ市漁協組合長
(青森県漁連理事)
木 村 亀 治

平成十三年度(第十六回)漁協運動功労者表彰式が、去る十一月二十一日、東京・虎ノ門パストラルにおいて行われた。

はじめに、植村正治全漁連会長が主催者挨拶を述べ、野間赳農林水産副大臣が祝辞を述べた。

続いて、表彰式に移り、植村正治全漁連会長から受賞者一人ひとりに漁協運動功労章、記章、賞状が手渡された。

この功労章は、漁協運動のリーダーとして長年活動した功績を顕彰するため、昭和六十一年に制定され、今年度本県からは、木村亀治むつ市漁協組合長(県漁連理事)が受賞されました。

功績の内容

昭和二十四年カレイ刺網漁業、ほたて桁網漁業に従事するとともに、昭和四十一年旧むつ市漁業協同組合理事に就任、昭和四十五年の旧むつ市漁業協同組合と浜奥内漁業協同組合の合併に際しての推進及び指導に努力を尽くされ、昭和五十二年からは代表理事組合長として優れた指導力と統率力を遺憾無く発揮し、組合事業の更なる発展に努められております。

又、漁民はもとより水産関係からの信望を得て、昭和五十年から平成十一年まで二十四年間市政と太いパイプ役のむつ市議会議員を努め、平成六年に第十五代むつ市議会議長を歴任するなど、水産関係等諸問題解決のため日夜奮闘され地方自治の振興にも尽くされております。

そして、平成五年から青森中央水産卸売市場副社長として、県内はもとより国内市場において消費者ニーズに対応した

適確、且つ、迅速な水産物の流通に努められております。

昭和五十二年にはむつ湾漁業振興会の理事に就任、その後、むつ湾漁業振興会代表監事を歴任し、平成九年からむつ湾漁業振興会の副会長を務めております。

この間、ほたて貝の販路拡大をはじめ、ほたて貝斃死の諸対策、漁場環境の保全やほたて貝廃棄物処理対策などに身をもつてあたり、むつ湾ほたて貝の漁業振興に取組み、むつ湾ほたて貝養殖漁家の所得向上にも貢献されております。

平成十二年から青森県西部海区漁業調整委員を務め沿岸漁業のリーダーとして地域の活性化と漁業振興に発揮されており、漁業系統においても青森県沿岸漁場開発協会理事、青森県栽培漁業振興協会理事、昭和五十九年から平成十一年六月まで青森県漁業協同組合連合会の代表監事として、又、平成十一年六月には理事に就任し、昭和五十四年から青森県漁船保険組合総代を務めるなど数々の要職にあつて本県漁業の振興発展に貢献されております。

第29回「海をきれいにする運動」
優秀作品表彰式開催

むつ湾漁業振興会と青森県漁業協同組合連合会の主催による第二十九回「海をきれいにする運動」は、むつ湾関係者のご協力により相当の成果を上げて終了しました。

この運動は、むつ湾の公害絶滅・漁場環境を図り、資源保護自然環境保全に努め、むつ湾の海をより美しいものとする事を目的に毎年七月二十日～十月三十一日まで展開され、今年も各漁協の協力のもと海岸清掃や海底清掃が行われました。



審査委員による作品審査会

標語五百一点の合計で九百七十三点の応募があり、専門審査員による厳正な審査の結果、優秀作品が決定され、去る十二月二十二日（土）に青森県水産ビルにおきまして表彰式が開催されました。

この中で図画の優秀作品（小学校六点、中学校四点）につきましては、第二十三回「全国海の子絵画

また、この運

動の一環として
むつ湾沿岸に位置する小・中学校を対象に海をテーマとした作品募集をしたところ、図画百四十八点、ポスター二百五十三点、作文七十一点、

展」へ出品されておりますので、こちらはまだ結果がでしだい関係者へお知らせ致します。

本運動について、ご協力をいただきまして関係者並びに学校に対して厚くお礼申し上げます。来年も引き続き本運動を展開して参りますのでご協力をいただきますようお願い致します。

尚、入賞された作品につきましては青森県水産ビルニフギャラリーへ展示致しておりますので、来館の際は是非ご覧下さい。



作文の部で表彰を受ける井村亜里香さん



表彰式記念写真

応募作品入選者

図画の部

小学校

特選

吉田 圭一郎 油川小二年

準特選

三津谷 昂久 浅所小二年
井筒 瑞紀 油川小四年

佳作

畑中 綾乃 第二田名部小二年
吉田 真也 野辺地小一年
大村 紫 油川小二年
尾野 大地 合浦小二年
松尾 親 馬門小二年
佐藤 由佳 第三田名部小二年
宿野部 大 浅所小三年
福村 俊永 若葉小三年
丸谷 美樹 第二川内小三年
石岡 圭和 蟹田小四年
斉藤 真実 合浦小四年
中村 治紀 原別小四年
成田 瑛 第二田名部小四年
山本 亜由美 小沢小四年

中学校

特選

小笠原 歩 東中三年

準特選

柳谷 隼 三厩中一年
和田 浩司 東中三年

佳作

内木 俊一 三厩中一年
小笠原 由起 東中二年
古沢 亮太 横浜第三中三年

三上 寿々子 三厩小五年
森内 加葵 油川小五年
西本 圭佑 第三田名部小五年
船橋 智典 東小六年

ポスターの部

小学校

特選

三上 匠 蓬田小五年

準特選

原田 里美 中野沢小三年
鍋谷 麻衣 苦生小五年

佳作

豊島 一基 浦田小一年
柴崎 重博 馬門小二年

中学校

特選

木戸 祥平 第三田名部小五年

準特選

笹野 詩織 南部小五年
大高 綾香 狩場沢小五年
柿崎 明 蓬田小五年
千代谷 和幸 小湊小四年
船水 祐輔 油川小四年
三戸 倭 油川小四年
広海 由希 平館小三年

特選

菊池 翔子 第二田名部小六年
石元 春香 第一田名部小六年
船橋 千尋 東小六年
浜田 香里 東小六年
垂井 美樹 浅所小六年
井 村 亜里香 野内小六年

中学校

特選

柳谷 みずほ 三厩中一年

準特選

成田 拓磨 大平中三年
笠井 功成 川内中三年

佳作

工藤 麻美 三厩中一年
工藤 大毅 蓬田中一年
相内 香奈江 蓬田中一年
杉山 美妃子 横浜中一年
濱田 梨沙 角達中一年

作文の部

特選

井村 亜里香 野内小六年

準特選

田中 茜朱 第二田名部小三年

佳作

「わたしが今できること」
工藤 優哉 蓬田中一年
「海を守ろう」

佳作

三津谷 慎治 浅所小五年
「海をたいせつに」
遠藤 慶太 第二川内小四年
「もつと海をきれいに」
植村 知永 原別小四年
「わたしの海」
田中 弥沙 蓬田中二年

「本当の海の色」

青 木 香 織 蓬田中二年

「私達の海」

杉 浦 弓 美 脇野沢中三年

「海をきれいにしよう」

八 幡 郁 美 蓬田中三年

「身近な海から」

「身近な海から」

準特選

澄んだ青みんなの心が映ってる

照 沼 永 子 大湊中三年

海の中底にはたくさんごみの山

三 津 谷 純 平 浅所小六年

佳 作

ゴミ捨てて

見えないキズができる海

上 路 美 里 第二田部小六年

清らかな海をよごせば犯罪者

富 江 千 里 小沢小六年

残そうよ海の命を未来まで

金 崎 美 波 狩場沢小六年

一つだけそれが海を変えていく

斉 藤 浩 樹 苦生小六年

すてないで

きたなくなるぞ海も心も

秋 田 凌 有畑小五年

ごみは捨てない

捨てさせない

そしてきれいな海づくり

新 川 麗 美 大湊小三年

もどそうよ白い砂浜青い海

辻 村 大 翔 小湊小六年

たいせつに

わたしたちのあおい海

瀬 川 裕 子 若葉小三年

どう思うこの海を見て未来の子

荒 田 静 香 大湊中一年

むつ湾の命を僕らの手で救おう

中 村 光 佐 蟹田中一年

むつ湾と明日の未来を歩もうよ

川 口 千 絵 大湊中二年

きれいなむつ湾みんなの願い

浜 田 美 保 脇野沢中三年

特 選

まもろうよ

うみはみんなのおかあさん

米 田 咲 稀 第一川内小一年

作文の部

特 選

『大切な海だから』

青森市立野内小学校 六年 井 村 亜里香

「夕日を見に海に行こう。」

と、親友の翔子さんが楽しそうにいいました。わたしも夕日を見たかったので、さん成して、二人で歩いて海に行くことにしました。

野内漁港近くの家公園に着くと、ほたての貝がらをまぶした道路を歩きながら、夕日をながめました。夕日をあびた海はきれ

いだったのですが、コンクリートの階段に、

ペットボトルやはっぱうすチロルなどの

ごみが、砂まみれになってころがっています。

した。

「今まで気づいてなかったけど、海公園でこんなによごれてたんだね。」

と、わたしが言うと、翔子さんが、

「うん知らなかったよ。ねえ、二人でさ、

ごみ拾いしない。きれいにしようよ。」

と、すぐに答えました。そして、

「わたし、じゃあ、透明のふくろを持ってくるから、ありちゃんは、青いふくろ持ってきてね。」

と、元気よく言いました。わたしもさん成して、

「うん、いいよ。」

と、へんじしました。それから、二人で走って家へ戻り、分別したごみを入れるための、青や透明のごみぶくろを持ってきました。ごみを拾おうと思ったのは、野内の人たち

みんなが大好きな海だからです。

拾ったごみで多かった物は、ペットボトル、空き缶、はっぱうスチロールなどです。今年は、春からごみの分別が始まったので、きちんと分別してごみぶくろに入れました。だんだんつかれてきましたが、わたしも翔子さんもやめようとはしませんでした。わたしと翔子さんの心の中には、

「ぜったい野内の海をきれいにして、気持ちよい野内にするぞ。」

という決意があつたからです。

拾っているうちに、
「捨てる人は、どんな気持ちなんだろう。野内の大事な海に、平気でごみを捨てて、べつにいいやと思ってるのかな。」
などと考え、腹が立ちました。

近くに『きれいな町 野内』という看板もあるのに、それも見ないで、ポイントと捨てるのでしょうか。二時間ほどかけて集めた四つの大きなごみぶくろを見ながら、そんなことを考えていると、翔子さんが、
「今日は、もう時間がないから、また明日続きやろうよ。」

と、痛そうに腰をのびしながら言いました。わたしもつかれた体をのびしながら、
「そうだね。明日、続きやろう。」
と、すぐに答えました。そして、階段のすみにごみぶくろをかためて帰ることにしま

した。夕暮れの中で、波音がこちよく聞こえました。

学校が終わり、自転車で急いで海公園にかけつけました。

きのう置いていった、ごみぶくろを捨てようと思つて、その辺りを見ました。でも、なぜありません。わたしと翔子さんは顔を見合せて、お互いに、

「なんでもないのがな。」

と、びっくりして言いました。

不思議に思いつつも、作業をしていると、ごみぶくろがばんばんになりました。そこで少し休けいしていると、もんぺをはいた、見知らぬおばあさんが、少し腰を曲げながら、ゆっくりとわたしたちの方に近づいてきました。

「あなたたちが。ここのごみ拾ってくれたのは。ここにごみぶくろあつたでしょう。おばあちゃんが捨ててあげたんだよ。あつ、ちよつと待つてで。」

と、にこにこして言いながら立ち去りました。

「えつ、ちよつと待つてつて言つたから、待つてないとだめだよ、翔子ちゃん。」
と、わたしが聞くと翔子さんは、
「うん。なんかお礼言われるとうれしいよね。」

と、笑いながら言いました。

しばらくすると、さっきのおばあさんが戻ってきました。手には、クリームパンを持っていました。

「ほら、食べてちょうだい。あなたたちいいことしたんだから。おばあちゃんうれしいよ。こんなものしかあげないけど。ごめんね。」

と言つたので、わたしたちは、
「ありがとうございます。本当にありがとうございました。」

と、にっこりして言いました。そして、二人でクリームパンを食べました。おばあさんは、わたしたちをにこにこしながら、だまって見ていました。食べ終わるころに、
「今日集めたごみ、おばあちゃんが持つていぐよ。本当にごみを拾ってくれてありがとう。」

と、言つて、青と透明のふくろを一つずつ持つていつてくれました。わたしたち二人は、えしゃくをして、おばあさんとお別れをしました。

夕日を浴びて輝く海を見ながら、ごみをむやみに捨てる人がいなくなり、みんな心のいい人になつてほしいと思いました。

五時ごろ、家に帰り、父にごみかたづけのことを話すと、よくがんばつたというようにぽんとかたをたたいてくれました。

青森県定置漁業協会免許の 優先順位に係る研修会

青森県定置漁業協会（西崎義三会長）主催の「漁業法等の一部改正による定置漁業の免許の優先順位に係る研修会」が十一月二十八日（水）、青森市の青森県水産ビルにおいて当協会、大型定置漁業者十二会員の代表他十四名の参加により開催されました。

去る、十月一日より漁業法等の一部を改正する法律が施行され、定置漁業の免許の優先順位についても一部見直しとなり、効率的な漁業経営を育成する観点からみなし法人を廃止し、高位の第一、二順位に株式会社を加える内容となったことによります。

研修会は、西崎会長主催者挨拶後、青森県農林水産部水産振興課の山口伸治氏と奥崎税務会計センターの奥崎武氏の両名を講師し、山口氏が「定置漁業権の適格性と優先順位について」また、奥崎氏が「免許の優先順位に係る法人形態等について」の内容で講演を行い、参加者は今後の漁業経営向上に役立てようと熱心に聞き入っていました。



奥崎税理士



研修風景



主催者挨拶する西崎会長

主な水産に関する動き

十一月

- 二日(金)
・ 漁協監事研修会(青森市)
- 十一日(日)
・ 平成十三年度青森県産ほたて・さけ
試食懇談会(八戸市)
- 十四日(水)
・ 第三回漁業者意見交換会(東京都)
- 十六日(金)
・ 日本海域複合的資源管理型漁業促進委員会(青森市)
・ 太平洋海域複合的資源管理型漁業促進委員会(青森市)
- 二十一日(水)
・ 平成十三年度漁協運動功労者表彰式(東京都)
- 二十二日(木)
・ 青森県漁獲可能量管理協議会(青森市)
- 二十八日(水)
・ 青森県定置漁業協会研修会(青森市)
・ 小型船舶の登録等に関する法律の概要に係る説明会(青森市)
- 三十日(金)
・ 第二十九回「海をきれいにする運動」

作品審査会(青森市)

十二月

- 一日(土)～二日(日)
・ 青森県農林水産祭(青森市)
- 三日(月)
・ 西北五ごみ処理施設湖岸設置断念(五所川原市)
- 五日(水)
・ 資源回復制度普及啓発全国会議(東京都)
- 十日(月)
・ 小型いか釣スルメイカTAC管理委員会(東京都)
- 十一日(火)
・ 「第十三回青森県水産賞」選考委員会(青森市)
- 十四日(金)
・ 平成十三年度漁協系統購買担当者研修会(青森市)
- 二十二日(土)
・ 遊漁船業資源管理啓発会議(青森市)
- 作品表彰式(青森市)

平成13年度(11月末)魚種・ほたて取扱状況

(単位: t・千円)

品名	平成13年度(A)		平成12年度(B)		対比A/B	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
するめいか	25,171	4,993,434	17,215	4,055,018	146%	123%
ぶり	979	318,283	1,481	698,495	66%	46%
まぐろ	238	603,410	133	330,625	179%	183%
さけ	2,187	573,254	3,300	1,309,007	66%	44%
たこ	736	424,057	480	243,451	153%	174%
ほたて	74,643	7,918,980	73,191	11,135,218	102%	71%

あおり漁連

1. 川畑八重子
2. 指導経理係
3. 手芸、山歩き
4. 特にありません。



1. 小浜 智和
2. 販売係
3. 回脚前転、回脚後転、又は3点頭立（回脚）
4. ボード歴21年、パチスロ歴21年



1. 佐々木一美
2. 販売係長
3. 飲む、打つ、?
4. いいところありません。



1. 小林 久子
2. 販売経理係
3. 読書、手芸
4. のんびりしています。



1. 佃 文人
2. 販売加工係
3. 広く浅く
4. 水虫、腰痛に悩んでいます。



1. 伊藤 幸弘
2. 販売係長
3. 馬
4. 大穴を狙うぞ。



1. 佐藤 五月
2. 総務経理係
3. 何も無いんで、これから作ろうかなと?
4. 1日中、眠っていたい私です。



1. 伝法 隆幸
2. 指導課長
3. パチンコ、マージャン少々
4. 子煩悩で家族思いの私です。最近年齢のせいか目が疲れます。



1. 島 研一
2. 販売係
3. 仕事
4. クルマ命!



1. 中森 敬子
2. 用務員
3. ドライブ、風景を見るのが好き。
4. 綺麗な所を一杯見たいです。夜景もいいですね。



1. 七島 拓仁
2. 指導無線係
3. ドライブ
4. いつもボーとしています。



1. 新田 正治
2. 販売係
3. パチスロ、トランプ、マグロの腹取り
4. マグロの腹取りなら誰にも負けません。



1. 佐々木晃一
2. 北通製氷組合工場長
3. 特にありません。
4. 氷一筋です



1. 山崎美智子
2. 購買経理係
3. 読書、ペコ餅作り
4. 特にありません。



1. 山本 盛喜
2. 販売係
3. いろいろ
4. 皆さん、マグロ以外の魚も食べましょう。



1. 氏 名
2. 担当業務
3. 趣味・特技
4. 自己PR

1. 加藤 功悦
2. 販売係
3. 小説（ミステリー、ファンタジー）
4. 謎のメールを不用意に開放、MyPCウイルスに感染してしまった…（あぼ）

